

Green Map project

平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム

非言語と言語の融合による地域国際化教育 「世界に開かれた高岡のまちづくり」



非言語と言語の融合による地域国際化計画

21世紀は観光の時代と言われます。観光が社会経済に与える影響は大きく、その促進は地域にとっても重要課題のひとつです。そこでこのGPでは、観光の切り口から高岡市の国際観光への貢献に取り組みました。

国の観光立国報告書によれば、自分の郷土をよく知り愛することが、外からの訪問者を増やすことに繋がります。この方針に沿って、GPプログラムが目指した学生教育目標は次のとおりです。

- 1.高岡の持つ観光資源、生活資源の発掘作業を体験し、地域に対する関心や知識を深める。
- 2.調査した高岡の資源を、世界共通のアイコンで表し、それらを、グリーンマップを使って発信するスキルを習得する。
- 3.高岡の資源を外国語で海外に発信するための実践的スキルを身に付ける。

このようなスキルを持った人材を輩出するために、産業デザイン学科と地域ビジネス学科の教員が中心となって融合教育を行いました。その結果、将来、高岡の国際的発信に貢献しうる素養を持った学生を育成することに一定の成果をあげることができました。しかし、何よりの成果は、多くの学生がこれらの学習を楽しみながら取り組むことができたことで、これは観光をテーマとしたプログラムにとって、おおいに価値のある副産物となったと思っています。

平成17年度現代GP取組担当
富山大学高岡短期大学部 教授 渡辺康洋

取り組みの概要

これからの地域社会は、国際化・外客誘致に向けて具体的に行動することが求められています。本学はこれまで地元高岡市と密着した教育を行ってきましたが、本取組では、関連授業に地域組織・住民の参加を求め、世界に開かれた教材を導入することにより、この新たな地域ニーズに応えるものです。

具体的には、これまで別学科、別区分で実施されてきた授業群を「国際化」という共通テーマで結んだ融合教育で実施し、学生の国際感覚を育みます。特に授業では地域に埋もれた文化資源を発掘した後、在住外国人や市担当部署との共同作業により、グリーンマップの作成をとおして、地域情報の国際的発信を可能にします。さらに地元ボランティアガイドの指導の下で、英語・中国語による観光資源の紹介体験をすることにより言語・非言語総合的コミュニケーション能力を育成します。こうした本取組は、高岡市を真に世界に開かれた都市へと発展させ、また国際的人材養成により地域国際化に貢献します。



現代 GP とは ...

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」とは、文部科学省が平成16年度に開始した高等教育の活性化促進を目的とした支援事業です。社会的要請の強い政策課題に関連して設定された公募テーマごとに、各大学等から申請された教育プロジェクト案の中から特に優れたものを選定し、財政支援を行うものです。

非言語と言語の融合による地域国際化教育「世界に開かれた高岡まちづくり」は、平成17年度公募テーマ「地域活性化への貢献(地元密着型)」の部門で採択されました。(申請時は高岡短期大学)

Green Map とは ...

グリーンマップは、地球環境の保全という視点から自分たちの住んでいる街を見直し、世界共通のアイコンを用いて地図をつくるという活動です。1992年、ニューヨークのエコデザイナー、ウェンディ・ブラウワー(Wendy E. Brower)さんが始めた時は、小さな市民活動のひとつひとつでしたが、現在では世界47ヶ国、350以上(2007年11月時点)の都市でつくられ、世界的な広がりを見せています。日本では、特定非営利活動法人グリーンマップジャパンが登録などの調整を行っている。<http://www.greenmap.jp/>

取組の目的

本学は、「地域の多様な要請に積極的に応え、広く地域社会に対して開かれた、特色ある短期大学を目指す」ことを建学理念とし、様々な地域貢献と地域社会で活躍できる人材の養成に取り組んできました。今回の取組も、この本学の理念・目的に沿って、

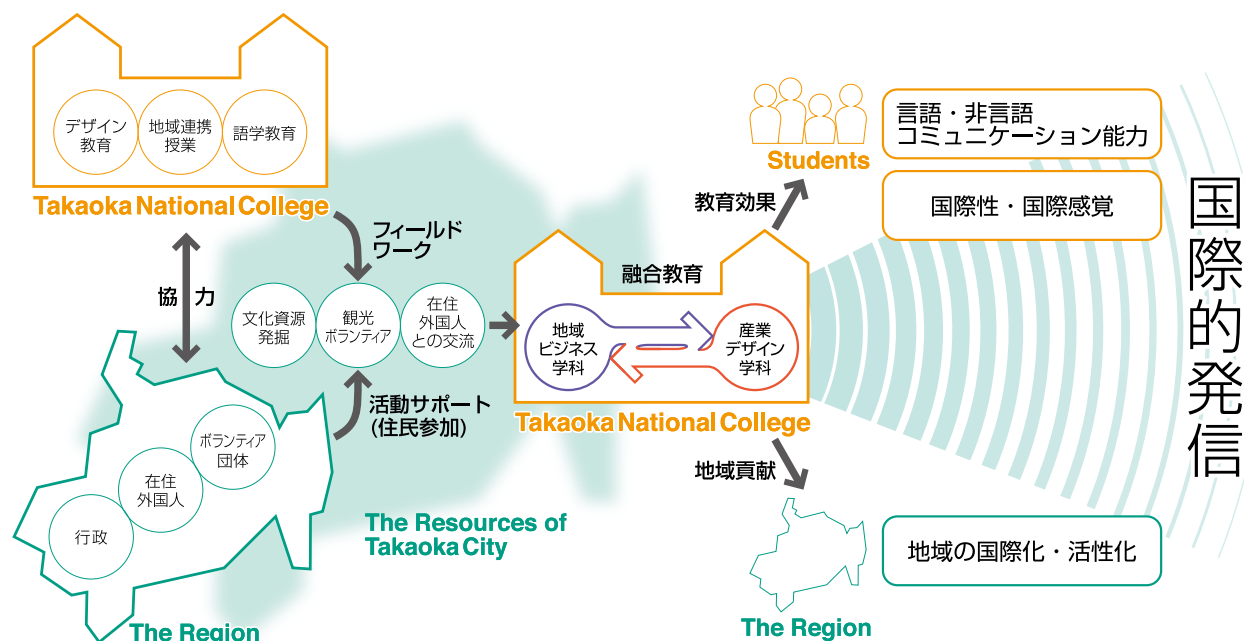
- * 国際的視野と総合的なコミュニケーション能力を持った人材の養成
- * 文化資源(生活や産業の視点も含む。)の発掘とその国際レベルでの再認識による地域の国際化

以上を目的とした教育活動を、地元高岡市や観光協会、国際交流協会等と協力・連携しながら、行おうとするものです。

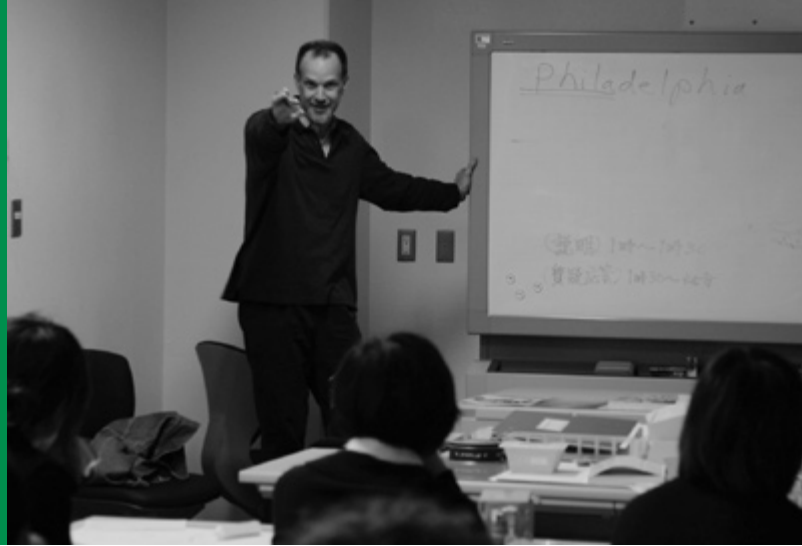
取組の目標

上記に掲げる(1)学生の総合的なコミュニケーション能力の伸長、(2)地域の国際化を実現するために次のような目標を立てています。

- * 国際化という共通テーマで結んだ融合教育
- * 地域文化資源の発掘と国際レベルでの再認識
- * 地域住民参加による共同作業
- * 「グリーンマップ」作成による世界に開かれた国際的発信



計画



取組の実施計画

本取組は、地域社会に関する基本的理解(1年次後期)、地域の観光資源・生活資源の発掘・認識方法の習得、地域資源の発信手法の習得(2年次前期)、英語・中国語を媒体とした国際交流の実践(2年次後期)の3段階からなる。これらを構成する授業を順次受講することによって、学生は地域資源を認識する能力と国際感覚を持つこととなり、またその成果物は直接的に地域の国際化に貢献する。具体的な実施計画は次の通り。

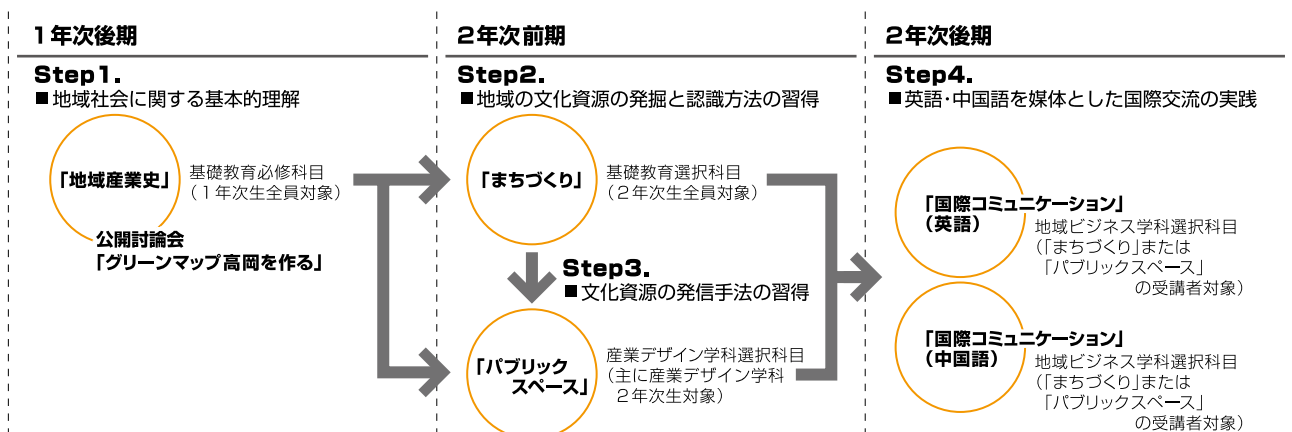
1 「地域産業史」(1年次後期)

- *基礎教育必修科目
- *受講対象者:1年次生全員(必修であるため全員が受講)
- *授業の位置づけ:地域産業に関する基礎的知識を習得してゆく過程の中で、公開討論会「高岡グリーンマップを作る」を実施する。この討論会では、地域の資源を発掘し、世界に通用する記号を使ってそれらを表現することによって、住民は地域の固有性を再認識することができ、また、外部からの地域認知度の向上を図ることができることを習得する。

*公開討論会「高岡グリーンマップを作る」への参加予定者

- ・グリーンマップデザイナー(米国人)
- ・グリーンマップジャパン代表者
- ・高岡市都市計画関係者
- ・ボランティアガイドグループ「あいの風」代表
- ・大学関係者

*必修科目である本授業を受講し、グリーンマップによる地域国際化への関心をもった学生は、2年次に「まちづくり」、「パブリックスペース」を履修する



2-1 「まちづくり」(2年次前期)

*基礎教育選択科目

*受講対象者:2年次生全員(「地域産業史」で、まちづくりに興味を持った学生が主として選択)

*授業の位置づけ:住民が快適に過ごせるまちづくり、来訪者に魅力的なまちづくりを目指して、地域の持つ資源を実際に探し出す作業を行い、地域の特性を知ることの重要性を認識する。また、この授業には高岡市在住の外国人、及び本学外国人留学生が参加し、彼ら外国人の目を通した資源発掘を行うことにより、外国人訪問実績がまだ少ない高岡市の「外国人旅行者にやさしいまちづくり」を検討する。

※「まちづくり」では、主として、地域の文化資源の発掘・再認識について理解を深めるが、次の段階として、それら資源を表現する手法としての「グリーンマップ」作成を、2年次前期の後半5週間で実施される「パブリックスペース」で体験する。

2-2 「パブリックスペース」(2年次前期)

*産業デザイン学科選択科目

*受講対象者:主として産業デザイン学科2年次生

*授業の位置づけ:世界約40カ国、220以上の地域で作られている「グリーンマップ」の高岡版を作成し、非言語国際コミュニケーションを可能とするデザインを用いて地域の特性を表現する手法を学ぶ。特にグリーンマップの特徴や目指すもの、また作成にあたって必要となる世界共通のグローバルアイコンについては、ニューヨークのグリーンマップ本部より、デザイナーを招聘し直接指導を受ける。また、授業には、高岡市都市計画関係者が参加し、行政の立場から現実的なまちづくりの状況を報告する。

※マップは、地域住民と本学学生との交流、および地元活性化と国際化の目標に合うよう例えば次の5つの項目について作成する。

- ・高岡市の魅力を伝える地場産業の所在地
- ・海外訪問者が楽しめる観光名所
- ・公共施設や衣食住に関する便利な情報
- ・若者に人気のある場所
- ・在住外国人に対する有益な情報(医療、教育、食べ物など)

※「パブリックスペース」受講により、発掘した高岡市の持つ資源をグリーンマップのアイコンとして「非言語」的に表現する手法を習得した学生は、原則全員が後期の「国際コミュニケーション(英語)」または「国際コミュニケーション(中国語)」を受講し、「言語」コミュニケーションの技法を学ぶ。

3 「国際コミュニケーション(英語)または(中国語)」(2年次後期)

*地域ビジネス学科選択科目

*受講対象者:「まちづくり」または「パブリックスペース」受講者

*授業の位置づけ:地域ビジネス学科の語学教員が担当するこの授業では、地域の各種資源を、異文化・社会に育った外国人に対して、学生が学んだ英語または中国語で表現する「言語」コミュニケーションを行うために必要な知識や語彙を学ぶ。具体的には、前期の授業で作成したマップの翻訳、また、市観光協会や地元のボランティアガイドグループの参加を得て、観光ガイドの实地演習を行う。

成果



特別講演会「高岡グリーンマップを作る」の実施

平成18年1月17日(火)、「グリーンマップ」について、学生、教員、地域の関係者が理解を深めることを目的とした講演会を実施しました。講師として、ニューヨークのグリーンマップ本部からウェンディ・ブラウアー氏と中島愛佳氏を、また京都にある日本支部グリーンマップジャパンからは右衛門佐美佐子氏、北條崇氏をお迎えしました。受講対象者の本学1年次生、高岡市都市計画・観光関係者、本学教員以外に、2年次生、専攻科生の参加もあり、およそ250人が聴講しました。



まちづくり

授業で学習したまちづくりの視点から高岡の魅力を高めるテーマを設定し、5班に分かれてフィールドワークを行いました。調査で得られた高岡の資源をグリーンマップに規定された分類に基づいて整理し、専用のデータベースに入力しました。



後期の「総合デザイン実習I」でもデータを追加。高岡グリーンマップの制作に活用しました。平成18年度終了時点で294件のデータが入力済です。

製品デザイン・CIデザイン

コンセプトワークを5~6人一組×5チームで進め、高岡グリーンマップのコンセプトを作成、パネルにまとめて発表しました。



グラフィックデザイン論

グリーンマップの理解を深める目的で、高岡古城公園を調査し、得られた情報を簡単なグリーンマップにまとめました。その上で「CIデザイン・製品デザイン」で提案された5つのコンセプト案を再検証し、高岡グリーンマップのコンセプトを「高岡の工芸(クラフト)」としました。





「夕塾」で完成したマップを披露



日本語と英語で作成された報告サイト
<http://gmap.tad.u-toyama.ac.jp/report/>

総合デザイン実習 I

前期の現代GP関連授業の中でまとめた調査項目、基本コンセプト、ローカルアイコン案をベースに、具体的に地図面とガイド面をデザインし、高岡グリーンマップを作成しました。

高岡グリーンマップでは伝統産業のローカルアイコンを作りました。高岡の伝統産業の鋳物と漆器を、同じデザインのアイコンで色を変えて使用しています。

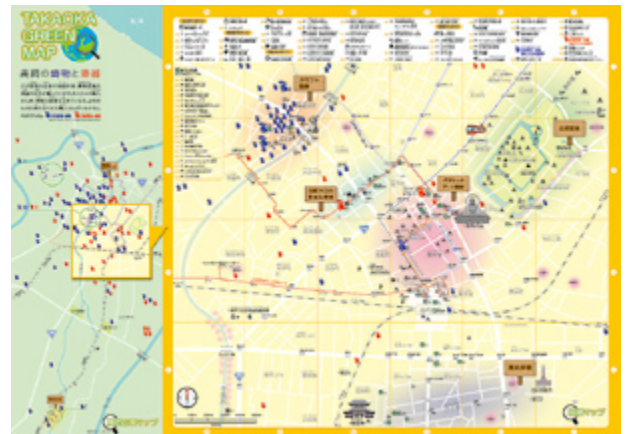


高岡鋳物



高岡漆器

完成したマップは広げるとA2サイズ(横594×縦420mm)になっています。高岡の伝統工芸や歴史的な建物が集中するエリアを拡大して紹介しています。



マップは畳み方が工夫され携帯しやすいようになっています。また、自分たちで見つけたポイントをマーキングできるようにシールが添付されています。



国際コミュニケーション (英語)

授業前半で実施した「外国と日本の文化の違い」「観光ガイドの際のコミュニケーションの方法」「観光資源の魅力を外国人に英語で伝える手法」等の学習を元に、高岡大仏を紹介するプレゼンテーション文や説明方法を検討。高岡大仏の英語による発信手法を、実際に現地に赴き実践しました。



国際コミュニケーション (中国語)



授業前半で実施した「外国と日本の文化の違い」「観光ガイドの際のコミュニケーションの方法」「観光資源の魅力を外国人に中国語で伝える手法」等の学習を元に、高岡大仏を紹介するプレゼンテーション文や説明方法を検討。高岡大仏の中国語による発信手法を、実際に現地に赴き実践しました。